

京都大学教育研究振興財団助成事業
成果報告書

平成30年9月25日

公益財団法人京都大学教育研究振興財団

会長 藤 洋 作 様

所属部局・研究科 総合博物館

職名・学年 教授

氏 名 本川 雅治

助成の種類	平成30年度 ・ 在外研究助成		
研究課題名	ベトナム産小型哺乳類の分類体系再検討と種多様性情報の理解		
受入機関	ベトナム科学技術院生態学生物資源研究所		
渡航期間	平成30年8月3日 ～ 平成30年9月6日		
成果の概要	タイトルは「成果の概要／報告者名」として、A4版2000字程度・和文で作成し、添付して下さい。「成果の概要」以外に添付する資料 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有()		
会計報告	交付を受けた助成金額	390,000 円	
	使用した助成金額	390,000 円	
	返納すべき助成金額	0 円	
	助成金の使途内訳	往復航空券	97,480 円
		日本国内交通費	5,650 円
		査証取得料	5,650 円
		宿泊料	177,000 円
滞在費	104,220 円		
	(助成金を上記に充当)		
当財団の助成について	(今回の助成に対する感想、今後の助成に望むこと等お書き下さい。助成事業の参考にさせていただきます。) 動物の分類学に関係し、基礎研究としてなかなか研究助成の得にくい分野であるため、1ヶ月のベトナムでの在外研究はきわめて有意義な機会であった。また、今後の研究を発展させることにつながったのでとてもありがたい。今後も基礎研究への助成を行っていただきたい。		

成果の概要／本川雅治

本助成により、8月3日から9月6日までベトナム・ハノイ市にあるベトナム科学技術院生態学生物資源研究所において、Nguyen Truong Son 研究員と共同して「ベトナム産小型哺乳類の分類体系再検討と種多様性情報の理解」に関する共同研究を実施した。私と Son 研究員は 2006 年よりベトナム各地で小型哺乳類の捕獲調査を行い、同時に標本を作成し、それらをもとにした分類学的研究を進めてきた。しかしながら、それぞれの調査においては、調査地点の標本からのデータ収集を行うだけでも多くの時間が必要であったために、ベトナム各地からの標本を一度に比較する機会がなかなか持てなかった。今回の滞在では約 1500 点のこれまでの共同研究で蓄積し、ベトナム科学技術院生態学生物資源研究所に保管されている標本を網羅的に調査し、その形態学的特徴や計測値を種や地域横断的に比較し、種ごとの個体変異や地理的変異を明らかにしながら、ベトナム産小型哺乳類の分類体系の再検討を進めた。ベトナムの標本に加えて、私が中国やミャンマーで収集した標本や博物館標本についても、計測値や標本写真をベトナム産と比較した。これまでの標本のすべてを短期間に網羅的に見ることによって、これまで気づけなかった齢のもたらす影響について新たな展開が得られた。また、種や地域ごとにデータや写真を整理したことにより、個体変異や地理的変異の精査が可能になった。その解析は滞在中から開始し、帰国後も継続して進めている。標本の一部の保存状態が悪化していたために、標本調査に予定より時間がかかった。そのため、論文執筆は帰国後に進めることにし、別の予算でもう一度、年度内にベトナムを訪問することにした。

小型哺乳類のうち、私は特にネズミ類を網羅的に調査し、新たな成果について、Son 研究員と議論を深めた。トガリネズミ類とモグラ類は、ベトナム科学技術院大学院の博士課程に在籍し、ベトナム国立自然博物館に勤務する Bui Tuan Hai 研究員と共同で調査を進め、Hai 研究員の学位論文の一部として3つの論文を共同でまとめることになった。滞在中に進めた共同解析で明らかになってきたベトナム国内での顕著な地理的分化を主とした詳細な内容について、Son 研究員も交えて議論を行った。コウモリ類は Son 研究員がこれまでも主体的に研究に取り組んできたが、新たに新種記載を共同して進めることになり、その解析結果の詳細について議論し、比較解析を進めた。このほかコウモリ類については、東南アジアに分布する種のいくつかについて、中国産同種、近縁種との関係がよく分かっていないものがある。このうち問題の大きいキクガシラコウモリ類のいくつかの種について新たな共同研究を行うことにし、中国での標本データをあわせて解析することによってベトナムに分布する種に見られる問題点の解明を進めることを私の研究室が分担することになった。

今回の在外研究で得られた成果は学術論文に加えて、網羅的なデータや総説的内容を 2020 年に Springer から出版予定で、私、Son 研究員、帯広畜産大学の押田教授の3名が編者となる「Wild Mammals of Vietnam」の中で公表することを確認し、その項目や

執筆者について確定した。私はネズミ類について主担するとともに、トガリネズミ類を Hai 研究員と共同で執筆すること、コウモリ類については Son 研究員が担当することになったが、小型哺乳類であるこれらの 3 グループについては私と Son 研究員で全般の内容確認を行うことになった。学術的意義の高い出版物になることが期待される。

こうした標本に基づくベトナムに生息する小型哺乳類の分類体系の再検討や種多様性情報の理解が大きく進展したことに加えて、今回の滞在では多くの研究者と議論する機会を得ることもできた点は私にとって有意義であった。とりわけ、ベトナム国内、あるいはインドシナ地域での顕著な地理的分化や高い種多様性を生み出した要因について、ベトナムにおける標高の高い産地の存在や、紅河やメコン川による地理的隔離の可能性、アンナン山脈と海洋がもたらす多雨な生息環境と豊かな森林環境、過去の気候変動に伴う分布変遷などを取り上げながら、Son 研究員、Hai 研究員のほか、ベトナム国立自然博物館の Nguyen Thien Tao 研究員、ハノイ国家自然科学大学の Nguyen Thanh Nam 講師、Hoang Trung Thanh 講師をはじめ、ハノイ周辺の多くの生物多様性研究者と議論することができ、新たな考えや発想につながった。

今回の在外研究は学術的成果、ベトナムの研究者との共同研究のさらなる発展や新たな展開につなげることができた点において、充実した成果につながったといえる。最後に、こうした機会を与えてくださった京都大学教育研究振興財団に心から感謝いたします。